

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	58人	算数	58人	理科	58人
第5学年	国語	59人	算数	59人	理科	59人

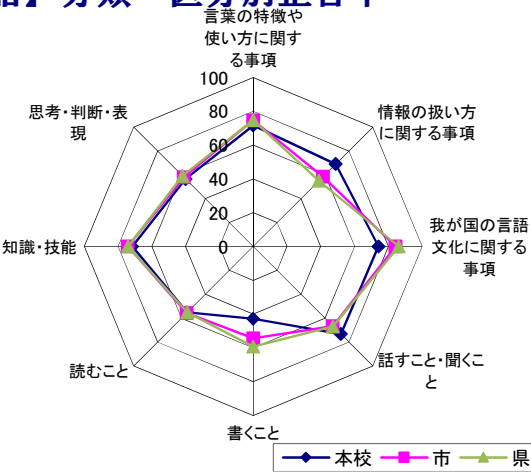
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原中央小学校小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	71.7	74.7	74.8
	情報の扱いに関する事項	69.0	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	74.1	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	73.3	66.7	66.9
	書くこと	42.7	54.3	59.3
	読むこと	55.2	55.6	55.2
観点	知識・技能	71.6	74.1	74.0
	思考・判断・表現	56.6	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

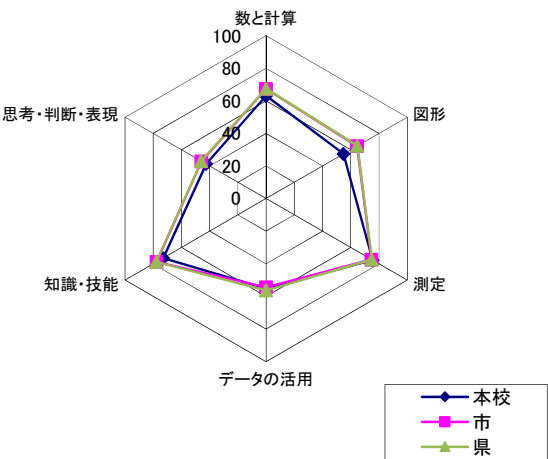
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○「相談」という漢字を書く問題に関して、市の平均を3ポイント上回った。 ●漢字を読んだり書いたりする問題において、6問中3問が市と県の平均より低い正答率となった。 ●ローマ字とその読み方の組み合わせとして適するものを選ぶ問題では、正答率が48.3ポイントであり、市や県の平均よりも低い正答率となった。	・現在学習している単元の漢字に限らず、習得が不十分な漢字に関しては繰り返し指導を行い、定着を図る。また、漢字を使って熟語作りを行ったり、短文を作成したりする学習活動を多く授業の中で取り入れるようにする。 ・ローマ字に触れる機会を設けるため、朝の学習等の時間を活用し、タブレット型端末によるタイピング活動を取り入れるようにする。
情報の扱いに関する事項	○国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうかをみる出題趣旨の問題では、市の平均を10.6ポイント、県の平均を14ポイント上回った。	・国語の授業に限らず、また、各教科において授業時間内外問わず、引き続き国語辞典を活用する機会を設けるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	●漢字のへんやつくりを理解する問題では、市の平均を10.2ポイント、県の平均を12ポイント下回った。	・漢字の学習を行う際にはへんやつくりにも着目させることを継続して取り組み、理解を深めさせるようにする。
話すこと・聞くこと	○話し手が伝えたいことの中心を捉える問題では、県の平均とほぼ同等であった。 ○司会者の話し方の工夫を捉える問題や話し合いで考えをまとめることができるかどうかをみる問題では、両方とも10ポイント上回った。	・自分と相手の意見を比べたり、話の要点をまとめたりする活動を取り入れていき、話すことや聞くことの力をつけるようにする。
書くこと	●指定された長さで文章を書くことや、自分の考えを明確にして文章を書く問題は、全て県の平均を下回った。	・日頃の授業や家庭学習の中で、日記や短文などを取り入れ文を書くことについて抵抗をなくすようにする。 ・段落や鍵かっこなど原稿用紙の使い方に慣れるよう繰り返し指導する。
読むこと	○物語の登場人物の行動の理由を選ぶ問題では、県の平均を約9ポイント上回った。 ○段落の内容を捉える問題では、県の平均を4.4ポイント上回った。 ●文と文とのつながりを捉える問題や情報と情報との関係について中心となる語や文を見つけて要約する問題は、県の平均を下回った。	・文章を読む際に中心となる語や文に気を付けさせ、読解力を向上させるようにする。 ・物語や説明文の学習の中で段落ごとに要点を読み取る活動を行い、文章の内容を捉える練習を積んでいくようにする。

宇都宮市立清原中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	63.1	67.3	67.4
	図形	54.8	64.5	64.7
	測定	75.4	74.7	74.9
	データの活用	55.2	54.4	56.4
観点	知識・技能	72.9	77.6	77.8
	思考・判断・表現	42.6	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

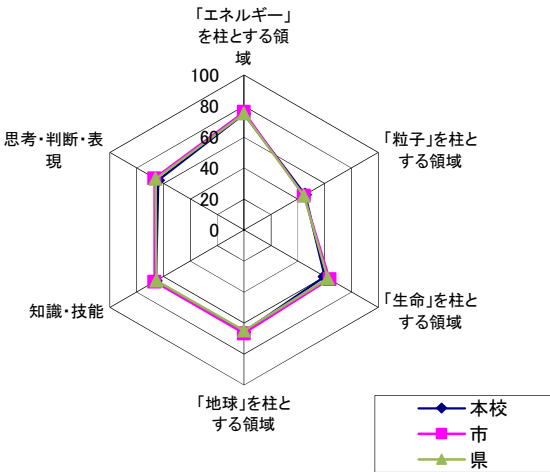
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○口を使った除法の式に関する問題では、県平均を約11ポイント上回った。 ○除法の立式に関する問題では、県平均を約11ポイント上回った。 ●大きな数の表し方に関する問題では、県平均を大きく下回った。	・数の相対的な大きさを求める学習では、位取り表や数直線を活用した指導を行い、数の仕組みについての理解を深めていく。
図形	●二等辺三角形の作図に関する問題では、県平均を約9ポイント下回った。	・作図の学習では、コンパスなどの用具を実際に操作する活動を多く取り入れるなど、実感を伴った理解ができるようにする。
測定	○はかりの目盛りを読み取り、重さを答える問題では、県平均を約6ポイント上回った。 ●地図から道のりを読み取って、その和を求める問題では、県平均を約4ポイント下回った。	・道のりの意味をしっかりと理解させた上で、測定に関する問題を数多く取ませ、習熟を図る。
データの活用	○棒グラフを読み取り、2番目に多かったスポーツを答える問題では、県平均を約2ポイント上回った。 ●1目盛りの数が異なる2つの棒グラフを比較する問題では、県平均を約5ポイント下回った。	・棒グラフの学習では、1目盛りの大きさに着目して読み取らせるようにするとともに、社会や理科等、他教科の学習と結び付けて指導を行う。

宇都宮市立清原中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	74.9	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	45.4	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	60.0	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	65.9	66.6	64.9
観点	知識・技能	65.7	66.8	65.4
	思考・判断・表現	64.1	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○鏡で反射した光の進み方を選ぶ問題では、県平均を5.6ポイント上回った。 ○鉄くぎが磁石になったことを確かめる方法を選ぶ問題では、県平均を7.1ポイント上回った。 ●実験の結果から、ゴムを伸ばす長さや車の動く距離の関係を推測する問題では、県平均を大きく下回った。	・風やゴムが物を動かすはたらきの学習では、実験の結果から推測する機会や、練習問題に取り組む時間を設定することにより、理解を深めるようにする。
「粒子」を柱とする領域	○形を変えた粘土の重さについて正しいものを選ぶ問題では、県平均を6.0ポイント上回った。 ●姿勢を変えて測った体重がどのようになるかを選び選んだ理由を答える問題の正答率が低かった。	・物の重さの学習では、今後も実験の時間を十分に取ることにし、児童一人一人が実感的に理解できるようにする。 ・一人一人が体感できる実験を取り入れることにより、正しい知識を身に付けさせる。また、実験を行う際、「この実験は、どのような目的で行うのか」ということを、正しく認識させるようにする。
「生命」を柱とする領域	○学校のまわりで見つけた生き物を観察した記録カードを比べる問題では、県平均を5.2ポイント上回った。 ●アリの足のつき方を選ぶ問題では、県平均を大きく下回った。 ●完全変態と不完全変態の違いに関する問題では、県平均を大きく下回った。	・生き物を観察をする学習では、一人一人が観察結果を丁寧に記録するとともに、グループや学級全体で観察結果を検証し、正しい結果を確かめるようにする。 ・昆虫の育ち方の学習では、観察環境を整え、数種類の昆虫を、成長過程ごとに比較することで、正しい知識の定着を図る。
「地球」を柱とする領域	○太陽の位置と影のできる方向を選ぶ問題では、県平均を8.0ポイント上回った。	・太陽と影の学習では、今後も観察の時間を十分に取ることにし、観察した記録を全体で検証することにより、児童一人一人が正しく理解できるようにする。

宇都宮市立清原中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「友達の前で自分の考えを意見を言うのは得意である」の肯定的回答が県平均を5.7ポイント上回った。今後も、発表に対して称賛し、自信をもって発言できるように、声掛けをしていきたい。

○「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」の肯定的回答が県平均を6.5ポイント上回った。学習や運動で得意不得意があっても、自分の目標に向かって努力していくことが大切であり、達成感につながることを、今後も伝えていきたい。

○「家の人としてよう来のことについて話すことがある」の肯定的回答が、県平均を6.6ポイント上回った。将来に対して前向きに捉え、家族の言葉が励みになっていると考えられる。今後も、家庭と連携し、よりよい学校生活が送れるよう、支援していきたい。

●「自分の行動や発言に自信をもっている」の肯定的回答は、県平均を10.9ポイント下回った。今後も、児童の達成感や自己肯定感を高められるよう、言葉かけ等の支援を行っていく。

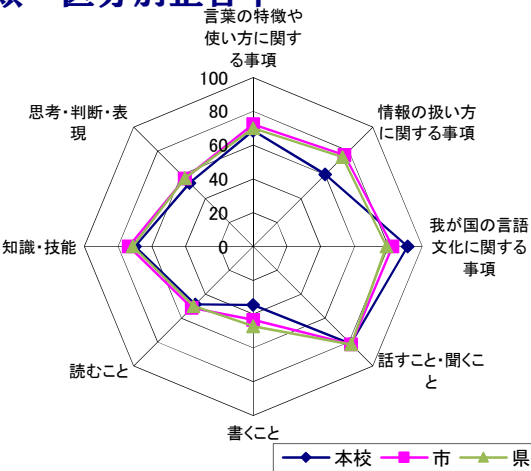
●「算数の学習は好きですか」の肯定的回答は、県平均を10.9ポイント下回った。また、「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている」の肯定的回答は、県平均を15ポイント下回った。児童が日常生活とつなげながら、算数の問題を楽しく考えられる場を工夫していく。

●「歴史上の人物や出来事を扱っているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ」の肯定的回答は、県平均を13ポイント下回った。図書館利用や各教科学習の中で、関心を高める働きかけを更に進めていく。

宇都宮市立清原中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	68.6	72.3	70.0
	情報の扱い方にに関する事項	60.3	76.4	74.9
	我が国の言語文化にに関する事項	91.4	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	81.5	81.9	82.0
	書くこと	34.5	43.5	47.2
	読むこと	48.5	51.4	49.8
観点	知識・技能	69.9	73.6	71.3
	思考・判断・表現	53.2	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

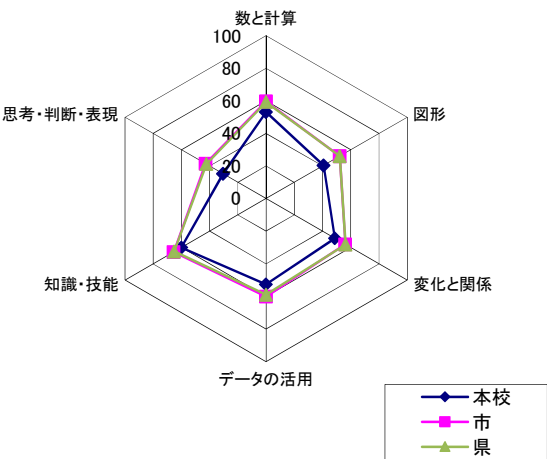
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	●漢字を読んだり書いたりする問題の正答率が全体的にやや低い傾向がある。 ●連用修飾語について理解する問題では、県の平均正答率を大きく下回っている。	・現在学習している単元の漢字に限らず、習得が不十分な漢字に関しては繰り返し指導を行い、定着を図る。また、漢字を使って熟語作りを行ったり、短文を作成したりする学習活動を多く授業の中で取り入れていく。 ・日常生活において読書活動を多く取り入れ、語彙力を高め、初めて読む文章の抵抗を無くすように指導していく。 ・文章を書く活動の際に、主語、述語、修飾語を意識させながら、それぞれの役割を理解させていく。
情報の扱い方にに関する事項	●漢字辞典の使い方を理解し、調べ方として適するものを選択する設問では、県の平均正答率を大きく下回っている。	・普段の学習から漢字の部首に興味をもち、漢字辞典を活用できるように日常生活と結びつけながら指導していく。
我が国の言語文化にに関する事項	○文章を読み、適することわざを選ぶ設問では、県の平均正答率を12.5ポイント上回っている。	・引き続き、様々なことわざに触れられるようにしたり、短文の中で活用したりできるよう指導していく。
話すこと・聞くこと	○話し手が話した内容を説明した文として適するものを選ぶ設問では、県の平均正答率をやや上回っている。 ●話し手の工夫の共通点を説明した文として適切なものを選ぶ設問では、県の平均正答率を2.6ポイント下回っている。	・話し合い活動において、意見の共通点や相違点を意識して自分の考えをまとめるように指導していく。 ・相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら話すことができるよう、授業中など話し合いの機会を多く設け、継続的に指導していく。
書くこと	●アンケート結果を読み、指定された条件で文章を書く問題では、4問中3問が県の平均正答率を大きく下回っている。	・段落の使い方などの文法や、自分の考えとそれを支える理由を明確にして文章を書くことを意識して学習に取り組ませる。 ・授業の振り返りや定期的に出題している作文の宿題等で、児童が意識して文章を書く機会を多く設けるようにしていく。
読むこと	○登場人物の性格や気持ちの変化について、具体的に想像して答える設問では、県の平均正答率を5ポイント以上上回っている。 ●段落の相互関係を捉える設問では、県の平均正答率を大きく下回っている。	・説明文において、段落ごとに要点を的確に読み取る活動を継続的に行い、繰り返し学習していく。 ・文章を読む際に、中心となる語や文を意識させ、読解力を向上させる。

宇都宮市立清原中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	53.1	59.7	59.2
	図形	40.8	52.1	52.1
	変化と関係	48.7	56.1	56.3
	データの活用	52.6	60.1	58.9
観点	知識・技能	60.1	65.5	65.1
	思考・判断・表現	30.5	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

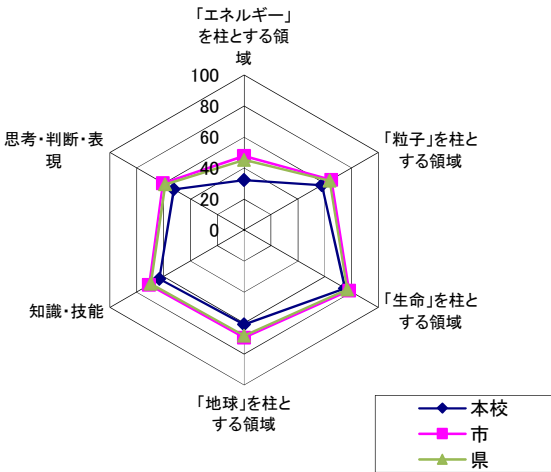
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○数直線上の目もりが示す分数を読み取り、仮分数に表す問題では、県の平均正答率より3.3ポイント上回った。 ●数直線をもとに、異分母分数の大小関係について考える問題では、県の平均正答率を大きく下回った。 ●四則混合の式の計算の順序として正しいものを選ぶ問題では県の平均正答率を大きく下回った。	・分数の学習では、分数の意味や表し方についての理解を深められるように、数直線や面積図を用いて、視覚的に大きさを捉えさせていく。 ・具体的な場面や解決過程を式に表現したり、逆に、式をとおして場面の意味や思考を読み取ったり、式を「算数の言葉」として用いられるように、スモールステップで学習を進め、無理なく確実に定着を図っていく。
図形	●面積の単位の関係を説明した文の空欄にあてはまる数を答える問題では、県の平均正答率を大きく下回った。 ●三角定規を利用して、正しい角度を選ぶ問題では、県の平均正答率を下回った。	・図形に関する問題に数多く取り組ませ、習熟を図る。 ・平面図形や立体の学習では、具体物を実際に観察したり操作したりする活動を通して、実感を伴った理解ができるようする。 ・面積の単位の関係が十進構造になっていることを丁寧に指導するとともに、様々な場面を通して豊かな量感を継続的に育てていく。
変化と関係	●伴って変わる2つの数量の関係について、表をたてに見て分かることを説明する問題では県の平均正答率を下回った。 ●2つの数量の関係を、もとの大きさの何倍になったかを考えて説明する問題では、県の平均正答率を下回った。	・長い文章(説明)への抵抗感を少しでもなくするため、日頃から長く複雑な問題でもあきらめずに根気よく文章を読み解き、じっくり考えていく姿勢を大切に、指導を積み重ねていく。 ・2つの数量の関係についての問題に数多く触れさせ、その関係を表や式に表しながら、その変化の様子や特徴を粘り強く考えさせる。自分の考えを自分の言葉で表していくことに時間をかけ、丁寧に取り組ませる。
データの活用	●2つの折れ線グラフからわかることを答える問題では、県の平均正答率を下回った。 ●条件にあてはまる人数を答える問題では、県の平均正答率を下回った。	・児童にとって身近でわかりやすいデータをたくさん活用し、まずは折れ線グラフや表の表し方の理解・習熟を図り、基本を徹底させる。 ・グラフや表から読み取れることを自分なりによく考え、根拠を明確にして自分の言葉で説明する学習活動を繰り返し実践していく。

宇都宮市立清原中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	32.2	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	57.8	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	75.2	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	60.9	69.5	68.1
観点	知識・技能	63.2	70.8	69.5
	思考・判断・表現	52.4	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	●検流計の針のふれ方から分かることを、単語で記入する設問では、県の平均正答率を下回った。 ●電流が大きくなる回路を選択する設問では、県の平均正答率を大きく下回った。	○実験の目的を明確にし、本時は何を習得する時間なのかを捉えた上で授業に臨めるようにする。そのために、学習のめあてやまとめを毎時間行い、授業の流れが定着するように指導する。 ●電流についての概念をきちんと押さえるとともに、実験の時間を十分に取ることにより、児童一人一人が実感的に理解できるようにする。
「粒子」を柱とする領域	○夏に線路のレールのつなぎ目がない理由を問う設問では、県の平均正答率をやや上回った。 ●あたためられた空気の動きについて答える設問では、県の平均正答率を大きく下回った。	○あたためられた空気の動きにおいて、一人一人が体感できる内容を取り入れることにより、正しい知識を身に付けさせる。更に、他の場においてもその仕組みを生かして考え、答えを導き出すことができるような機会を確保していく。
「生命」を柱とする領域	○季節の変化とカエルの様子を関係付ける設問では、県の平均正答率をやや上回った。 ●サクラが季節によりどのように変化するか、イラストを選択する設問では、県の平均正答率を6.2ポイント下回った。	○植物の観察において、種類により成長の違いが見取れるように、児童の興味関心による偏りのない観察ができるよう助言する。また、観察記録をクラス全体で見直す機会を設け、共通点と差異点について着目する活動を設ける。
「地球」を柱とする領域	●日なたにおいた水槽の水が減った理由を選択する設問では、県の平均正答率を下回った。 ●冷やしたペットボトルについた水滴が、空気中の何が冷やされたものなのかを答える設問では、県の平均正答率を下回った。	●実験の結果から分かったことを、自分の言葉でまとめるだけでなく、クラス全体で共有して、理科的な言葉を使ったまとめが出来るような授業を展開する。 ●実験から得られた結果を、日常生活に広げて考えられるように指導していく。

宇都宮市立清原中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「人と話すことは楽しい」の肯定的回答割合は84.5ポイントで、県の肯定的回答割合を5.9ポイント上回った。学習において、自分の考えを表現することはグループや学級での学び合いの基礎となると考えられる。今後も、発表する機会を多く設け、考えを広げる経験をすることで体験的に学習できるようにしたい。

○「自分のよさを人のために生かしたいと思う」の肯定的回答割合は62.1ポイントで、県の肯定的回答割合を3.5ポイント上回った。自己有用感をもっているのも、特別活動等における児童の活躍を称賛し、更に肯定感も高めていきたい。

●「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定的回答割合は17.7ポイント下回った。また、「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定的回答割合は、県の肯定的回答割合を17.1ポイント下回った。授業の導入を工夫するとともに、毎時間ごとに行うめあての設定を児童と共に行うことで学ぶことの必要感を上げていきたい。また、家庭学習における復習が十分に行えていない様子が見える。学習への意欲を、復習や予習にも向けられるよう、家庭学習の内容について再度の確認や声掛け等を積極的にしていきたい。

宇都宮市立清原中央小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えをもち、豊かに表現できる力の育成	・グループ学習や話し合い活動を積極的に取り入れることで、自信をもって発表したり、意欲的に学習に取り組んだりできるように支援している。	・「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」という設問の肯定的回答率が4年生は77.6%で県の肯定的回答率より1.3ポイント上回り、5年生は81%で4.7ポイント上回った。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	・家庭学習の強調週間を設け、保護者に通知を出すなど共通理解を図りながら、習慣が身につくように指導している。	・「家で、学校の宿題をしている」という設問の肯定的回答率が4、5年生ともに100%だが、「家で学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答率が4年生は51.7%で県の肯定的回答率より9.0ポイント下回り、5年生は、44.9%で13.1ポイント下回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査において、指定された長さや条件で文章を書く問題のほとんどが、県や市の正答率を大きく下回った。	作文や日記などの定期的な課題の提出及び添削指導	授業の振り返りや家庭学習の中で、文章を書く機会を多く取り入れ、文章を書くことへの抵抗感をなくすようにする。また、文章を書く際には、段落や修飾語などの文法の使い方を意識した記述ができるように指導する。